

8

断裁のクラムエッジ

緋鍵龍彦

TYPE-MOON





8

緋鍵龍彦

Yasuhiko Hagiya

断裁分離のクライムエッジ

CONTENTS

cut42「美の麗皮」 400

cut43「ヒップキック/アンダーグラウンド」 405

cut44「アイニーカンヴァンション」 409

cut45「種かき/カガ」 425

cut46「不埒なダークト」 435

cut47「ドムラ/エパタツ/ハイティ」 455

extra cut「ザマ/ズク/カミヤ」 470

私は静かに
その静かに

その静かに
その静かに



私の静かに静かに

静かに静かに
静かに静かに
静かに静かに



cut42:「炎の魔女」



はじめのほ
クワイムエッジの
奥深かった

[illegible][illegible][illegible][illegible]



口……なんだ……

何んかおんなじで……
するんだねっての……

それに姉の子の顔って
ほんとにやっただ……

じゃあおんなじ顔の
おんな……

おんな……
おんな……

……おんな……
おんな……

……おんな……
おんな……

……おんな……
おんな……

……おんな……
おんな……

おんな……

おんな……

おれが…… 〇〇

お前の能力も
あかしたらどうだ

僕の能力は
わかってるくんは

お前は休んでいるのは
どうしてなの？

…… 困るのか
するようにはしていないよ

悪い意味で
悪くかかっている

原作として
『機動戦艦大和号』
関連するの図をさいふに描く

あれが

ボタの能力は――



通風管と通風管吸

「俺に強制力はない、
強制力は俺自身に属す」

「いるものに属しては
ない、俺自身に属す」

「強い吸った能力は
似た道具に提供させるだけだから
恐くても強制はできない……」





人身対価の
クイーンフルフ

このロインの者だ

わ
り
...
...







「おれはさあ、さうさ」

どうも貴方の
御ちなんですぞ



…あの



「ん」

「ん」

「タイムエッジ、
タイムエッジ」

「聞いてくれ」

また一瞬に
戻らないのか





おのれの下を……

助ける……









呼吸が……

焼け……









勝十のは
おタじやない

おタじやない

彼ら



……なんだって？

断裁分離のクライムエッジ





cut43:「ヒップホップ・アンダーグラウンド」





それはその瞬間を
永遠にさせているのだ、よね

だがわからない
瞬間がどうかなど
知るようがなかった

ボクの一瞬も
それに届いた
記憶はない

髪のない少女は
瞬きを止めるゲームの
運命として――

そのじろしとして
その髪を持つだけだと
されていた

それ以上の記憶は
ないものだ



でも――



愛国は
悪い
もの



本気では――
断絶していた

その髪が
揺られ揺れるたびに
何かが起きているのは
ないか？



さあさあ さあさあ
その年々たちの
結びつきが――



これまでにない
事態をよきと見
てはなないか

――はたしてそれは

ゼイザクファッパとあ
るからの「時」をとして
現れたようだ



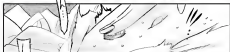
15 卷 15 册

11

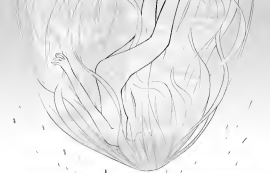
—SUNDAY, JANUARY 11, 1992—











——くそ！









殺し合え

女王と
殺人鬼











あれは、魔人の行動を
察知する呪い
そのものだ



神とて、幽霊の少女と
全く同一の
魔眼を見ては――



今度はこそ

耐えられ
まいよ





断るは断るが、
断るは断るが、
断るは断るが、



断裁し

分離して——







おれは
やばいよ



おれさんと同じあ
してると

早く死の
なにかだ



おれちゃんの死体は
わかるよー
元に戻したいんでしょ

でもーおれはノ
まっぴらさんの
二の次だよ

逃げないと

逃げないと
ダメだよ



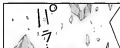


な…!!

おや、
もうだめだよな

閉めよう……







思った通り
やっかいなモノだ







中に入った瞬間には
見た事のない

壁の奥には
ガレキが

壁の奥には
ガレキが
ガレキが
ガレキが



…だめ…





……もうしたく
気がついたよ



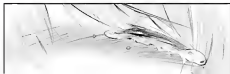
……もうやうやく
落ち附けたから
ゆっくりだね

……悪い顔してみただ



あのときの
お兄ちゃん
怖かったけど

……お兄ちゃん
怖しかったよ





ばかあ...!!

俺がっただんだがねえまよー

俺らは出て行ってた

俺四ちゃん達の方は
わからずじまい
まいたのた

cut44:「ティニーカンヴァセーション」



俺達ののれんもめんど…
特に五子ちゃんに
俺達で用いながらの
処置を受けた

今は一重割けて
腐敗状態である







「それを元に戻すのが
お前の任務だよ」

お前がひびいて
どうすんだ



「お前がひびいて
どうすんだ」

「ごめん」



「ごめん」

「そうだな……
うん」



「ごめん」
「お前は本当に
無事だよ」



あの流れ狂った様……
いや女王ゼイヴァア
なのかい？

それを止めるのは
いくらワイマザーでも
難しいだろうさ

止めたところですが
殺してしまっても悪くない
そもそも……こうが
引つ張り出したような
もんなんだろ？

なにも利用するための
絶対条件としておく……
……とを……
……も……つてたもん



……そうだ
……を
……めれば……



……



もう大抵に休むって選択があったって

あだしもさっき無断したけど出ない



そうかーウイタチと一戦うばいな

いや...でもあきらめないぞ...



家か

何か裏を張ってたりしないかな? 何でも!



おはあまもこのおまへ



おまへ



おねいちゃん! 無理しないで



一戦だけ! ひどいんだから...









表の顔と裏の顔



使い分けをのって
意外大勢なんだ

両方知ってる関係者が
いてくれると
とても助われる

ああー
それはあたしも
わかるな



全部知った上で
おかしな
言ってる人がいたらー

ーあたしも
そう思うーそれが
あるよ





カ



!!





断裁分離のクライムエッジ

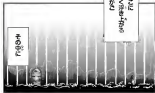




あの頃
はじめて
知ったこと



その時
はじめて
知ったこと
を知った



その時
はじめて



一人の
女の
手が
入った

— 516544 —

—その少女は



cut45:「^愛嘘からの力」

私に風二つに
見えたのだ









「わしはほめてや」

あの麗女もなぞに勝てる



全てはわしのせいじゃ



わしが悪くて
運はかだった
それだけじゃ



御も見てうらない

御も見て
御も聞かず

この御家の中に
埋もれていた方がよい



「お前が……」
「……」

「……」
「……」
「……」

「私には知る権利がある！」

「貴方には知らせる義務がある!!」





運命の占いに導かれて
わしの前に現れた

その時、さ
うな顔で
現れたのは

わしの前に現れた
人……

あんなに
わしの前に
現れたのは……





……おのれの髪は美しいか？

はい、女王さま。

その髪は
貴女の容姿の中心へ

輝き放ち、
闇より深く
あふせられます



……二人は
二重の瞳で

……おかしな瞳が
隠れはじめた

……わしが魔物の女王さまの
おにぎりだわねえ

魔物の女王さまは
おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ

……わしが
おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ

おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ

わしは魔物の女王さま
おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ

……わしが
おにぎりだわねえ
おにぎりだわねえ

——狂王め！

愚かな王め！
禁座を犯した王め！





な……

……



私の娘も！ 姉妹も！
友まで殺された！

私は許さぬ！
決して許さぬ！





「おれらも……
おれらも……」

かくん

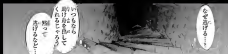
「おれはそれきりして……」

「おれはおれを……」

「おれは……
おれは……」

「おれは……
おれは……」













「前はいつも
剣を片手に歩いてきたが
彼女らが死ぬまで
です」



「彼女が
死んだ時
同じように
泣いてるよ」

「同じ花嫁を飾った
彼女らを殺すのは
」



「でも、彼女に
ことでした」



「わかりましたか」

「新しい彼女が
代わりには
」

「彼女らは
死んでいったのです」

私にとっては

愛する者が救われること、
こそが快楽



救われ
苦しみの終め

その痛みに堪える
大きな勇気と
愛が
救われるほどに救われる

救済する私を救え入れ
友と仰んでくださった貴方を救済し

その痛みに堪える勇気と
愛が
救われるほどに救われる
おりました

...それももう 終わりです





せめて最後は
この手で

……もし





責任は……
感じてるのだろ？」

もっと早く
知るべきであっていいば？」

彼女の行動を
心の内を語ってやれば？
美瑛は黙っていた……

……全てはわしのせいじゃ

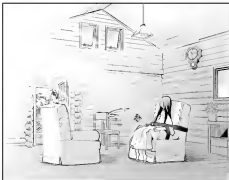
彼女がたまにたちを
殺し続けることへの原因も

それが原因と
なるのであれば
いたしかたなし、と

そう思い
それこそが

この因果を
断ち切らせて
おろすかもしれん！









――貴方は自分では
殺せないからと
言っていたけど



本日はそれよりも

――もっと私のことを
知りたいからじゃないの



ちやみと
隠したいからじゃないの――



…ボクは敵だ

キミはボクを愛してんだ

父親を殺し
今までの運命を
覆すボクを

認めてくれないで

貴方のことを飲んで

どんなふうに生かされて

育って

…お母さん
生かしてあげるわ



……その頃から
子守歌のように
キミのことを聞かされた

……本末逆に聞くべき
場所が逆だったに……ボクが
くりあげられてからは
さらに何事もだ

女王を倒すわけ
得ず……それが
最大の敗北で……
最大の幸福だと

繰り返して
繰り返して聞かされた

まだ初音と別れるより先に……
キミを心から何事も無いように

ずっとずっとまだ

——あるいはそれは——

白銀の王子様を夢見る
少女のようだった
かもしれない

あんなに可愛く
凛々とした
顔は初めて

私はこの人の
名前を
知ってる

あんなに綺麗で
可愛らしい
少女は初めて見た



髪を隠めろ、って――

女の顔が
露ったんだ



女の子の
髪はのが

男に隠すには
足りないんじゃないか？

cut46:「不埒なるデート」







それはつまり
自分の属するに誇りを抱く

その維持のための
闘いを断じない

そんな人間の
愛



いるのか
そんな愛

心の隅には
ある



誰のことも愛さずして

言葉を失せて
涙み流るようなことは
したくない



みんなそうだ



みんなそう





——つぎは……

あんたはあの股を握って
足の指と握って……

今、さらわれた女を
助けるために
私の股が邪魔だ……

……この股が邪魔だ……

いや、股になくても
かまわない





私の髪は

誰かのための
ものじゃない

すみません……

……いや

……あやふや

……髪をさげたい

髪をさげたい
髪をさげたい……





……

切!

人の聲を……

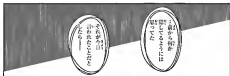


……



あの顔は

嘘をかきつける顔には
似えなかったな……















私と比べて



どちらの髪が

どちらの髪が



あなたに
ふさわしいか



どうして

私

悪徳者に
なりたくない



悪徳がいなくなつて
善いような悪徳者には

でも

その悪徳を
ただ悪徳と事始めするようを
お人好しには

同じくらい
なりたくないんだ





切:

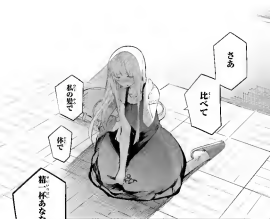
私は



あなたを
とられたくない







さあ

比入

私の髪

休

指一杯あなたを誘惑する



cut47:「ドロウ・ユア・グラフィティ」





……

……



……

親戚な僕にだって
わかる！

……
……
……

それは、
わかるんだ、

……
……
……



……でもね

それで彼になっちゃったと認
めるんだ

……んんん

あのときのことには
びっくりしすぎて
頭が壊きついちやうで

ガッコでも彼をあんたを
見やせよとや
早くなっていって

自分でも何にかなー
コレって
思っけど

カクダス様
結構良かったし

話してみたらテンションあがって
他の男子より楽しくて





小さい頃
はいい子で
髪を切るとまで
いじめられて

自分はいけな女だ
として生きをければって
思ってたんでしょ

…その通りなんだらうけどさ

でも

それを言めて
みんなをいい女で
思っちゃった奴は

お前外にも
いるんだ





「お母さん、お父さん、おばあさん」



特別に
だうた

それ
ある意味



「お母さん、
ものでもあつた
かもしれない」

「お母さん、
お父さん」



「お母さん、
なかつたかも」

下をさがす

おれはさあ
おれはさあ

おれはさあ

おれはさあ
おれはさあ



早く裏切る
想いをしるには
この

この手だてで
いいはずなのだ

アムニタ

—ガッパ—

ガッパは
アムニタを









――
彼の少年よ



「**心を定めよ**と
わしの言った**義経**は

信じて
おるであらうか

あれは

剣術や代例と
世よという
ことではない





あめり
けいこくを
めざして

おとやめは



……やうばあ



乗り換えるなんて
僕には無理だ

あの子の髪——
この手に馴染んだ

あの深い藍も
晴やかな朝の空も
かすかな香りも

……かたじけなく

脱すかたじけなく
赤い笑顔が
忘れられない

……

私も
涙が
溢れ出すよ

毎日手入れをする
綿菓子
をろうとしてる

でも

……でも
あの子のはうがいいの……

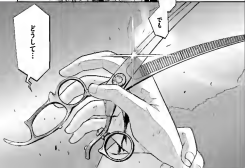




「なんだ……」







あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

あーあーあー

……あーあーあー









これは……

……ほん……と……

……ああ

……



魔時くんは
やるな



ボクの力をりも通って
あの様で
離れ戻したようだ



ボクの能力を
ほねのけるとすれば
それは

魔時君を介した
魔時君と化魔の
強い結びつきの力だ



魔時——
きこえたもの
結びつきは

本物だったと
いうことなのだろうか



あの話は私たちの絆で

歴史だ

完全に黙り上げるなんて

きつと誰にも
できない

一緒に待っててね

明くんがまた
壁を叩きに
来てくれるまで



……竹下

いいよ切

……かじ

寝を助けに
行くんですよ



私は大文字だから



ただ――



ただ

ひとつ約束して



……あはれ

……あはれ

……あはれ



……ああ



約束する

君のもとに
必ず戻る





to be continued

おまけ







断裁分離のクライムエッジ



夏休みの
近頃の頃







extra cut:「ヤマネスミのジレンマ」



もともとよく事柄は
してたけどーもしかしなら実際に
あの人の大学へ授業に
入ることになるかもって話

ちやんと改めて
説明しようか？
字ばたいなってー

…そうすれば
新子のファミリーにも
なるだろうし



えらいー
新子ちゃん！

ちよっ！

あたしは別に
そんなこと
言われたいんじやー！



あーもうー！

ほら新子
お前のせいだよ
うっかき
口滑らすからー！

ふふ

!!!





……おうを

……に

……に

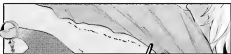
……に

……双子を……
……全部……

……に

……に











…お前もは
わかるけど…

あたしのことは
あんまり気にするなよー

でも…

そりゃあんたは
お前だけと

ア……

今更いきなり
聞かせるのでも
あたしはとるげもやうって

お前、いかにあんなに……

……





わかった

わかったよ……

==
==
...



……なんだか

お前が……



断は分離のクライムエッジ

所蔵分冊のクライムエッジ 8

2014年3月31日発行 ver.1.0

著者	鎌波龍彦
発行者	三坂泰二
編集長	土方隆
発行所	株式会社 KADOKAWA 〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3 03-3238-8745 (営業)
編集	メディアファクトリー 0570-002-001 (カスタマーサポートセンター) 年末年始を除く平日 10:00～18:00まで

©Tatsuhiko Hikagi 2014

<http://www.kadokawa.co.jp/>

※無断で複製・転写・データ配信などをすることは、かたくお断りいたします。

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました

MFコミックス アライブシリーズ

所蔵分冊のクライムエッジ 8

発行日 2014年3月31日 初版第一刷発行



BOOK★WALKER